

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームえがお
(ユニット名)	ユニットA
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市
記入者名 (管理者)	廣澤 英俊
記入日	平成 19年 9月 16日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、事業所、ユニットごとの独自の理念を作っているが、地域密着型サービスの役割を考慮した理念の形成に至っていない。	○	地域密着型サービスの理念や内容を踏まえた理念を全職員で考えたい。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念については全職員が実現に向けて試行錯誤しながら努力している。	○	地域密着型サービスの理念をどう形成し実践していくが模索している。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	近隣には特養と病院しかなく、地域と密着した関係を築ける地域資源が乏しい。こちらから出かけることはあっても、気軽に来ていただける環境ではないため、取り組みが難しい。	○	地域密着型サービスの理念や内容を実践が難しい立地環境であるが、地域との関係をどう築くか、可能な限り努力していきたい。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣には特養と病院しかなく、地域と密着した関係を築ける地域資源が乏しい。こちらから出かけることはあっても、気軽に来ていただける環境ではない。	○	地域密着型サービスの理念や内容を実践が難しい立地環境であるが、地域との関係をどう築くか、可能な限り努力していきたい。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣には特養と病院しかなく、地域と密着した関係を築ける地域資源が乏しい。こちらから出かけることはあっても、気軽に来ていただける環境ではないが、今年度より清掃活動に職員が参加している。	○	地域密着型サービスの理念や内容を実践が難しい立地環境であるが、地域との関係をどう築くか、可能な限り努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣には特養と病院しかなく、地域と密着した関係を築ける地域資源が乏しい。こちらから出かけることはあっても、気軽に来ていただける環境ではない。	○	地域密着型サービスの理念や内容を実践が難しい立地環境であるが、地域との関係をどう築くか、可能な限り努力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の機会を、自己を振り返る場として認識している。全職員が自己評価に関わり、話し合いの場を持ちながらサービスの向上に努めている。	○	改善策が具体性、計画性に乏しいので、長期的に改善が必要な項目については計画を持って取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度よりスタートしたばかりであり、事業所からの情報提供を行っているのが現状。	○	今後、会議委員の皆様から率直な意見がいただけるよう会議内容を工夫していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	佐世保市グループホーム連絡協議会事務局として、市職員との連絡・連携を図っている。	○	双方の理解を進め、更なるサービスの質の向上を図りたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について理解し必要に応じ関係機関に相談・連携を行っているが、職員はまだ勉強不足。	○	各職員が制度の目的や役割を理解できるよう勉強会を行う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で委員会を立ち上げ、高齢者虐待防止に向けた取り組みを行っており、グループホーム職員も委員になっている。委員会主催の勉強会を行い、職員が参加している。	○	虐待はいつ何時起こるかわからないので、継続して職員に啓発していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結・解除の際はご家族の立場に立ち丁寧な説明、手続きを心がけている。</p>	<p>○</p> <p>利用者や家族の言葉に耳を傾け、利用者側の立場に立った説明を行うよう努めたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が直接、意見や不満、苦情を伝えることができない方が多くいらっしゃるので職員が利用者の思いを汲み取る努力を行っている。</p>	<p>○</p> <p>職員側の価値観に縛られず、利用者個々の思いを大切にできるよう努力を続けていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、利用者の暮らしぶりや健康状態等について記入した月次報告書を作成し郵送している。金銭は出納簿を作成しその写しを合わせて郵送している。</p>	<p>○</p> <p>今後も家族が安心できるような情報提供を心がけたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が意見や不満、苦情を伝えやすい雰囲気づくりを心がけている。また、関連施設や関係機関等への相談もできることを入所時に伝えている。意見や不満、苦情があった場合はすぐに対応し、要因の探求、改善策を実行しサービスの向上に努めている。</p>	<p>○</p> <p>家族によっては意見や不満、苦情を伝えづらい場合もあるので職員側が敏感に反応し、対応していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>業務の大変さを理解し、業務内容の柔軟な変更や職員数の変更など職員の要望に可能な限り応じている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者個々の暮らしをできる限り支えることができるよう勤務ローテーションを組んでいる。また、管理者は状況に応じた対応ができるよう通常のシフトには入れていない。</p>	<p>○</p> <p>利用者や家族の要望に対して柔軟な対応ができるよう考慮しながら、あわせて職員に過度の負担がかからないよう注意したい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動を行う際、利用者のダメージを最小限に抑えることができるよう、普段から事業所間の交流を心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員個々の能力や経験に合わせてながら、職場内外の研修に参加させている。	○ 職員個別のスキルアップに関する計画を立案したい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	佐世保市グループホーム連絡協議会事務局として、市内外の同業者と連絡・連携を図り、職員は合同の研修・勉強会に参加している。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	勤務時間帯や業務内容について負担がないか管理者を通じて確認し、改善に取り組んでいる。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	管理者を通じ、各職員の現状を把握するよう務め、各人が向上心をもって業務に励むことができるよう努めている。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	可能な限り、事前面接または訪問を行い、本人の様子や生活状況の把握に努めている。事前面接や訪問で得た情報を職員に伝え情報の共有化を図り、本人のサービス利用開始直後の不安や混乱、ストレスの軽減に努めている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	可能な限り、事前面接または訪問を行い、ご家族の思いや希望を聞き受け止める努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用待機者が多く、相談から利用開始に至るまでの期間が長い場合が多い。その際は他事業所の紹介、各種サービスの紹介などのアドバイスを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して利用することは少ないため、本人の不安や混乱、ストレスを軽減する為、事前面接や訪問で得た情報を職員に伝え情報の共有化を図っている。また、ご家族や関係のあった馴染みの方に来ていただき安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と喜怒哀楽を共にし、互いに支えあえる関係が築けるよう努力している。	○	職員数や職員のコンディションによっては一方的な関係の場面が見受けられるので、気を引き締めて業務を行う。また、そのような場面が見られた際は、互いに注意できるような職員関係の構築に努めたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力なしでのグループホームでの認知症介護はできないと考えている。家族と職員が協同で利用者の生活を支えることができるよう心がけている。	○	利用者と家族の関係が途切れないよう、密な情報提供や必要な援助を行っていききたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が一番求める者は家族であることが多く、できる限り、グループホームでの生活の様子や健康状態、認知症の進行具合等の情報提供を行い、家族が本人の様子を知ることができ、関係を持ち続けることができる環境を整備している。	○	本人と家族の関係に留意しながら、引き続きよりよい関係が継続できるよう支援していききたい。また、利用前に何らかのトラブルを抱えている場合は時間をかけ関係改善ができるよう支援していききたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していたデイサービスを利用したり(同一法人)、墓参りや以前住んでいた土地へのドライブを行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間関係の理解に努め、利用者同士のトラブルを未然に防止できるよう、席替えや職員の声かけなど支援している。	○	職員によっては対応が「さりげなさ」にかける部分があり、対応方法の改善を行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族によってはサービス終了後も季節ごとの訪問やお手紙を頂き感謝している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で利用者の行動や発言に注意を払い本人の意思を推測し、一職員の意見のみではなく他職員の意見を聞きながら利用者の希望や威光の把握に努めている。	○	利用者の思いや意向は日々変化する為、常に把握する努力をしなければならない。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に生活歴調査票の記入を依頼し把握できるよう努めている。また、日々のかかわりの中でご本人や訪問された親類・知人から聞き取った情報については職員間で共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個人の生活のリズムを把握するよう努めている。しかしながら、その内容を把握しても本人のグループホームでの生活に反映されていないことがあり、職員主体の場面がある。	○	利用者のできること・わかることに注目し、本人主体の生活ができるよう支援したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活の主体が利用者であることに注意しながら、本人の立場に立った介護計画を職員で作成している。必要に応じて家族や関係機関に打診を行っているが十分反映されていない。	○	家族の意見を聞きだせるよう職員が努力し、また必要に応じ関係機関との連携を図りながら介護計画の作成を進めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院後や本人の状況の変化に合わせて柔軟に介護計画を変更するよう心がけている。	○	家族の意見を聞きだせるよう職員が努力し、また必要に応じ関係機関との連携を図りながら介護計画の作成を進めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを準備し、身体、生活の状況及び本人の行動、発言、エピソード等をできるだけ詳しく記録している。いつでも職員が確認できるようにしており情報の共有化を図っている。	○	記録技術に個人差があるので、的確、かつ簡潔に記録できるよう人材育成を行いたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の職員の同行、本人の希望する場所へ外出等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高める努力をしている。	○	地域における認知症介護の拠点として何ができるか模索していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣には特養と病院しかなく、地域と密着した関係を築ける地域資源が乏しい。こちらから出かけることはあっても、気軽に来ていただける環境ではない。	○	地域密着型サービス事業所にとって厳しい立地条件の中で、地域との関係をいかに築き、協同していくことができるかあきらめず模索していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2～3ヶ月に1度、利用者の家族が勤める美容院が訪問美容ボランティアに来ていただいている。また、リハビリが必要な方は近隣の病院で医療保険によるリハビリを行っている。	○	他に有効なサービスがないか模索し、必要に応じて利用できるよう支援したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいているが、まだ、積極的な意見交換ができていない。また、地域福祉全般の拠点としての機能を有するまでに至っていない。	○	今後、地域包括支援センターの動向を見ながら連携を図っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム利用以前に通院していたかかりつけ医院の継続した受診を行い、基本的に職員が同行し日々の様子を伝え連携を図っている。(ただし、遠方の場合はご家族に受診をお願いするか、近隣の医療機関を紹介している。)また、特変時はまずかかりつけ医に必ず連絡し、指示を仰ぐようにしている。受診結果の家族への報告も必ず行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	通常の介護方法で対応が難しい場合でもできるだけグループホームでの生活が継続できるよう認知症専門医と連携し、相談・受診を行っている。	○	薬物を使用する場合でも最低限の服薬量を目指し、日々の様子や健康状態を詳細に報告するなど連携を密にし、利用者本人らしい生活を支えていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を1名配置し、利用者の健康管理や病院との連携、特変時の対応・指示など利用者の健康管理に留意している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、できるだけ職員が見舞うようにし、入院による精神的不安の軽減、認知症の進行防止に努めている。家族・医療機関と連絡・連携を密にし、早期退院ができるよう支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点で医療行為が必要な方の受け入れは行っていない。(退所条件)それ以外での重度化の場合、できる限りグループホームで生活できるよう支援しているが、重度化や終末期に向けた明確な方針、意識の共有は図れていない。	○	社会情勢の変化を見ながら、重度化・終末期に向けた方針を策定したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現時点で医療行為が必要な方の受け入れは行っていない。(退所条件)それ以外での重度化の場合、できる限りグループホームで生活できるよう支援しているが、重度化や終末期に向けた明確な方針、意識の共有は図れていない。	○	社会情勢の変化を見ながら、重度化・終末期に向けた方針を策定したい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等情報提供を行っている。馴染みの職員が機会を作って訪問に行くなど住み替え時のダメージを最小限に食い止めるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう心がけているが、業務が忙しいときや職員のコンディションによって守れていない場面がある。記録等の個人情報の取り扱いは厳重に管理し利用者及び家族の同意なしに使用することがないよう徹底している。	○ 利用者個人の尊厳と権利を守ることの重要性を日々職員と共に話し合い、意識の継続に努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は利用者と一緒に過ごす中で、本人の希望や関心、嗜好等を見極め、生活の中での選択肢を増やす努力をしている。	○ 利用者の生活の中で、選択可能な場面がまだ少ない。今後、利用者自身が自分で決めることが増えるよう、多くの場面でより複数の選択肢を準備できるよう職員間で話し合い努力したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、できるだけその日その時の利用者の気持ちを尊重した支援を心がけている。しかしながら、時折、職員主導の場面が見受けられる。	○ 利用者が望む暮らし、その日その時の気持ちを正確に把握し、的確にさりげない支援ができるよう心がけたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が意思決定ができる場合、着る服を選んでいただけるよう心がけている。また服が汚れた場合はすぐに更衣ができるよう支援している。美容は訪問ボランティア、理容は近隣の理容室を利用している。	○ 自己決定が難しい方でも身だしなみやおしゃれに関して本人の意思や希望を把握できる能力を養いたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕は隣接する特養の給食サービスを利用しているが、本人の嗜好を把握し、食事バランスに注意しながらおいしく食事が取れるよう支援している。別メニューではあるが、職員も同じテーブルで食事を摂り、食事介助や食べこぼし等のさりげない支援を心がけている。また、畑で取れた野菜や旬の食材を使った料理を利用者に手伝っていただきながら作ることもある。	○ 法人の方針上、グループホームでの調理を行っていないが、それに変わるサービスの充実(おやつ作り、畑で取れた野菜や旬の食材を使った一品料理等)を図ってきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用前に嗜好品の調査を行っている。現在、飲酒・喫煙の希望者はいないが、希望があれば対応する。飲み物やおやつ類はいくつかの種類を用意し、利用者を選択していただく場面を増やしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	「トイレでの排泄」を目標にしている。排泄チェック票を記入し、利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行うよう努めている。また、リハビリパンツやオムツを使用している方でも本人の状況に応じて見直しを行っている。	○	失敗した場合の本人への配慮が欠ける場面があるので注意していきたい。また、誘導が本人の排泄リズムに合わせてではなく、定時の誘導になっている場合があるのであわせて注意していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中の中の入浴となっている。入浴時は利用者がリラックスし気持ちよく入浴できるよう支援している。	○	今後、職員間で入浴の意味を確認し、利用者が希望される場合は今までの生活習慣に合わせた入浴時間への柔軟な対応を心がけたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えている。日中の休息が必要な場合は適時とっていただいている。全利用者とも夜間は比較的よく休まれている。寝つけなかったり、不安になって起きた際は職員が話をして安心して休めるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。しかしながら、職員主導の場面が多い。	○	利用者のできることできないことをもう一度見定め、できることは可能な限り本人にやっていただけるような支援を心がけたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務所預かりとしている。小額の現金を持っている方もいる。	○	利用者の能力、希望を聞き柔軟に対応したい。また、事務所管理であっても買い物や支払い時など自分で支払っていただく工夫をしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩、買い物、ドライブを積極的に行っている。希望者は周辺の公園を職員付き添いのもと散歩していただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の業務に追われ、個別の外出支援は不十分である。	○	まずは利用者の希望を把握し、実現可能かどうか職員で話し合いできる限り実現していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される場合はそれに答えている。毎年年賀状を出す支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けず、自由に、気軽に訪れることができるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に委員会があり、身体拘束廃止に向けた取り組みや勉強会を行っている。身体拘束の可能性がある場合は管理者、職員で話し合っている。	○	自分たちの行動や発言が身体拘束になっていないか、職員が自ら振り返る姿勢を持ち続けていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や窓に鍵はかけていない。利用者が外に出ようとされる場合はできるだけ付き添い本人が納得されるまで付き合うようにしている。	○	鍵をかけることの弊害や言葉による行動抑制の弊害を職員で再確認したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者と同じ空間にいて連携し、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は数時間後ごとに訪室し、起きられたときにすぐに対応できるよう注意を払っている。	○	忙しいときなどうっかり利用者の所在や様子を把握できない場面があるので、注意したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況を踏まえ、注意が必要な物品は職員が管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと・事故報告書を記録し、事故の再発防止に努めている。	○	職員によって能力差がある。特に未経験のことに関しての知識が乏しいので職員の能力に応じた勉強会を行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一部職員や母体看護師に頼る傾向にあり、すべての職員ができる状態ではない。	○	最低限の救急救命法や、特変時の対応など全職員が的確に対応できるよう勉強会を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関しては年2回訓練を行っている。その他天災については現在検討中である。	○	訓練、マニュアルの意義を職員が把握し、防災に対する意識が継続するよう努力したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	来園時や月次報告者で利用者に起こりうるリスクを家族に正確に伝え協力を得ている。	○	職員それぞれが利用者の今後発生するであろうリスクについて適格に予測できる能力を養っていききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や些細な変化も見逃さず、変化等に気づいた場合はその情報を職員間で共有し、管理者または看護師に連絡し早期受診を心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂く「お薬説明書」をファイルし、職員が内容を確認できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬しているか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取、排便を促す飲み物の提供、散歩やレクを行って体を動かす等で自然排便を促す支援を行っている。慢性の方は薬を服薬しているが、排泄状況にあわせ主治医と連携し薬量や種類を調整している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	開所当時から口腔ケアを習慣化しており、毎食後の歯磨きを全利用者が行っている。自力で行えない方は必要に応じた支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎日記録し、健康管理に役立てている。	○	栄養摂取カロリーについて分からない点があるので献立にカロリーの記入を行う。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内でマニュアルを作り、それに従った対応をしている。利用者・職員はうがい、手洗いを徹底している。インフルエンザ、肺炎については家族の同意のもと予防接種を受けている。(職員も含む)また、ノロウイルス等食中毒に関して物品の消毒、嘔吐物等の適切な処理、外部からの持ち込みの防止等適切に行っている。	○	新人、異動してきた職員に対する周知徹底が不十分の為、それら職員へ向けた勉強会を行っていききたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは使用毎に消毒している。給食サービスを利用している為、食品を扱う機会が少ないが、衛生管理は徹底して行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣に住居がまったくなく、立地上訪れやすい環境ではないが、来園する方が親しみやすいよう玄関前に草花を植え家庭的な雰囲気を出すようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひな祭りや、七夕など季節感を味わっていただけるよう工夫している。日中ほとんどの方がホールで過ごされており、心地よい空間となっていると思う。	○	職員の声のトーンが大きいことがあり、注意が必要。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースに独りになる空間は特に準備しておらず、各居室が独りになるスペースとなっている。また、ソファは大体の自分の座る位置が決まっており、気の合う利用者が近くに座れるよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の中に入るものであれば持ち込んでいただけるよう家族には説明している。物品持ち込みの希望は少ないが、小さな日用品や写真など持ち込まれている方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	チェック表を作り、暑すぎず寒すぎないよう温度調整をこまめに行っている。また、入眠前に各部屋の温度調整を行っている。健康管理の面からも換気もこまめに行って過ごしやすい環境を整えている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況にあわせ、手すりの増設やテーブルや椅子の配置などを検討し安全に過ごせる工夫をしている。	○	利用者それぞれの今後生活する上でのリスクを予測し、安全な生活環境を整えていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状況にあわせ、環境整備に努めている。今のところ、環境面に関して混乱や失敗はない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇やプランターに草花を植えたり、畑のスペースを確保し収穫の喜びや季節感が味わえたりできるよう環境を整備しているが、以前ほど関心を示す利用者が少ない。気候がよい時期は隣接する芝生広場に出かけ、食事を摂ったり、レクを行ったりと活用している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然豊かな環境の中で、その人らしくゆっくりとした時間が過ごせるグループホームを目指し日々努力しています。ご利用者本人だけでなく、ご家族も安心していただけるサービス内容、情報の提供を心がけています。